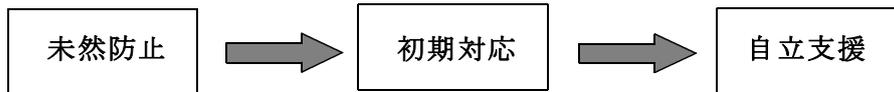


不登校対策 不登校を生まない取組の3ステップ



未然防止の視点

- ◆子どもが登校する（できる）4つの条件
 - ① 学校は行かせるもの（保護者と協力して、保護者の意識を身につける。）
 - ② 学校ではプラスの体験ができるという気持ち（できる、褒められる）
 - ③ 安心感など、心を満たすエネルギーが得られる期待感
 - ④ 社会的能力（自己実現・心のコントロール・思いやりなど）

初期対応の視点・レベル

- ◆不登校のチェックポイント（一つでも出てきたら不登校のサイン）
子どもに次のような様子が見られたらすぐに対応を！
 - 体調不良・気分不良での遅刻、早退、欠課が多くなってきた。
 - 月3日以上欠席があった。
 - 給食を食べる量が著しく減少（増加）した。
 - 学習意欲が低下した。
 - 特定の教科のある日に欠席・欠課がある。
 - 休み時間等、独りであることが多くなった。
 - 教室以外で過ごすことが多くなった。
 - からかわれたり、仲間はずれにされたりすることがある。
- ◆初期対応のレベル
 - レベル1 欠席1日・・・担任による家庭への電話連絡（養護教諭へ連絡）
 - レベル2 欠席2日・・・担任による家庭訪問（教育相談担当等へ連絡）
 - レベル3 欠席3日・・・担任・主任などと家庭訪問（管理職へ連絡）
 - レベル4 欠席4日・・・管理職との家庭訪問
 - レベル5 欠席5日・・・個別支援チームの発足（全校体制での支援）

※全職員の意識をそろえる。断続・継続を問わず気になる生徒へ対応する。

自立支援への対応

- ◆登校復帰に向けて
 - ① 環境整備（保健室・相談室の整備をし、校内の「居場所」を充実させる。）
 - ② 相談員と連携 SC スクールカウンセラー、SSW ソーシャルスキルワーカーの活用
 - ③ 外部機関との連携（適応指導教室・警察・児童相談所などの連携）
 - ④ 学校組織の確立（担任・生徒指導・教育相談担当の支援）
 - ⑤ 子どものみとり（過去や指導の記録・学習支援）
 - ⑥ 小中連携（中1ギャップの解消・潜在化する様々な問題を意識化）